

Representative Interview
児童運営委員長 & 生徒会長 インタビュー

児童・生徒の代表として学校づくりを担う2人に今後の学校生活について伺います。

前期課程 ▶ 児童運営委員長

「後期課程の部活する姿がカッコいい」と感じました!

児童運営委員長 (6年)

かわにし さくらさ 川西 彩紗 さん



校舎に入ってすぐのホールの広さに驚きました。後期課程の先輩方と廊下などですれ違うとき最初は緊張しましたが、優しく声をかけてくれます。放課後に部活をしている姿を見て、カッコいいと感じ憧れる存在です。

後期課程 ▶ 生徒会長

「こんな9年生になりたい」と言われる見本を目指して

生徒会長 (9年)

のより きらら 野寄 姫星 さん



とにかく広くてきれいな各々の教室や校舎を見て、新たな気持ちで受験にむけて頑張ろうと思いました。また、1~6年生から見られる目も増え、しっかりとお手本になり「こんな9年生になりたい」と言われるよう学校生活を送ります。

Q 制服はどうなるの?

A これまでとおり1~6年生は私服、7~9年生は旧金田中の制服です。

制服は旧金田中の制服デザインのまま校章の部分を新しい校章へ変更。(8・9年生は従来のまま)

Q 体育会はどうなるの?

A 前期課程の体育会は秋季、後期課程の体育会は春季と別々で実施します。

子どもたちの発達段階なども考慮し、体育会は別々で行います。また、他の学校行事は検討中です。

Q 修学旅行は後期課程だけ?

A 6年生で「前期修学旅行」、8年生で「修学旅行」を行います。

これまで通り変更はなく、旧小学校の6年生と旧中学校の2年生の時期に修学旅行を実施します。

Q 入学・卒業式はどうなるの?

A 学校へ入学する1年生の入学式、巣立つ9年生の卒業式のみになります。

ただし、6年生から7年生へ進級する際に「前期課程修了式」を執り行います。

学校生活の疑問

Q & A Question & Answer

小中学校が一つとなり、登下校の時間や学校行事など学校生活にも変化がありました。ここではそんな学校生活の疑問についてQ&A方式でお答えしていきます。

Q 登下校の時間は異なるの?

A 学校全体で登校時間は8時25分まで、下校時間は16時10分に統一しました。

ただし、前期課程では5時間授業の日もあり、15時20分で下校する日もあります。

Q 授業時間はどうなるの?

A 今までとおり1~6年生は45分授業、7~9年生は50分授業のままです。

休み時間・給食時間で授業時間差を調整しています。将来的には5・6年生も50分授業にする予定。

Q 転出・転入学はできるの?

A 前期課程修了後、私立や県立中学校の受験もできます。

また、今までとおり転居などによる転出入も可能です。

Ask for headteacher
4 New School Vision

2校から1校で 学校生活にも変化が。 初代校長が示した 学校づくりの指針

新校舎で始まった「金田義務教育学校」の学校生活での数々の疑問。また、初代校長の柴田徹校長がどのような教育ビジョンを掲げ、学校づくりをするのかを伺いました。

金田義務教育学校 Profile

柴田 徹 校長

平成27年、糸田町立糸田中学校の教頭に就任。平成30年、福智町教育委員会の主幹指導主事として2年間務める。令和2年、福智町立金田義務教育学校初代校長に就任。教師生活31年、座右の銘は「継続は力なり」。

9年間の教育活動を通して 社会人基礎力の向上を目指す

旧金田小学校の意思を継いで掲げた本校の教育目標「かしこく、なかよく・たくましい金田っ子の育成」には、平成18年に経産省が発表した「社会人基礎力」の要素が含まれています。「かしこく」には考え抜く力、「なかよく」にはチームで働く力、「たくましく」には前に踏み出す力。人が社会で生きていく上で必要な要素を育むための目標が込められています。教育目標を達成するため、義務教育学校での初年度は、「自分から勉強に向かう心を育てること、みんながあいさつできること、時間を守ること、掃除を一生懸命取り組むこと」の4目標を設定。社会で生きる力を育てるためにも、まずは教職員全員で児童生徒たちと真正面から接していきたいと考えています。

家庭や地域と連携強化して 教育の礎築く「学校づくり」

子どもたちはたくさんの大人との出会いから刺激を受けて「社会人基礎力」を身に付けていくため、保護者や地域との連携が必要不可欠だと感じています。保護者や地域の皆さまには、学校外の場所でも登下校時の見守りや声かけなど、様々な形で子どもたちの成長を応援していただけばと思います。

歩み始めて約半年の金田義務教育学校ですが、ゆくゆくは地域や町民のかたに「この学校があったよかった」と言われるような学校づくりを目指しています。そのためにも、旧校の良き伝統を受け継ぎつつ「トライ&エラー」でこの町の教育の根幹を担う学校の礎を築いていきたいと思っています。